

## 新リスク管理プロジェクト

クレームを抑制することは、直接  
保険料負担の軽減に反映します



## 新しいリスク管理のアプローチ

P&I 相互保険は原価で保険を提供しています。被保険者が利益を目的とせずに運営しているため、メンバーが負担する相互組合のコストは、クレームに直接リンクしています。そのため、クレームを減らすことは、即メンバーの負担（保険料）に直接インパクトを与えることになります。

1987 年以来、クラブは、海上事故にかかわる船主責任クレームを扱う上での経験を、メンバーへの注意喚起や現場の声を収集するために、役立てることに力を入れてまいりました。これらの多くは、最近多発するクレーム情勢の速報や、ポスター、ビデオ、貨物積載に関する注意喚起などを通して提供しています。

この活動はもちろん継続していきませんが、さらにクラブでは、メンバーが各フリートに内在するリスクに優先順位をつけることを支援する方法に焦点をあてる必要性を実感しています。それは、昨今の経済状況の中でメンバーのコスト、つまり保険料の抑制を支援するためということになります。

リスクとは、危険事象の発生頻度とその結果の関数である ( $RISK = FREQUENCY \times CONSEQUENCE$ ) といわれています。クラブではハイリスク・エリアを優先し、どのような「脅威」がクレームを引き起こすのかということ特定するために、当クラブ内で発生したクレームの件数及び金額を分析しました。

クレームの最前線にいるコレスポンデントやサーベイヤー、クレーム担当者や保険契約担当者、そして最も重要な船員の助けを得て、技術的な問題であれ、手順、管理の問題であれ、どのようなコントロールがあればクレームを抑制できたのか、もし適切に行われていたら、どのようなコントロールが効いたのかを特定

することを模索してきました。

現在クラブは、関連する「脅威」と「コントロール」の評価を行うために、クラブの査定人、クレーム担当者及び保険契約担当者とともに、いくつかのメンバーにフリート毎の詳しいリスク・プロフィールを提供し、メンバーの社内あるいは船上において、この作業を実行しています。

我々は、P&I クレームの原因を引き起こしたと思われるリスクの高い「脅威」と、その結果を軽減すると思われる「コントロール」に焦点を当てることで、将来それが船上であれ陸上であれ、ひとつの小さな人為的ミスが「一本のワラも、限度を超せばラクダの背骨を折る」（英諺 “Straw that breaks the camel's back”）という事にならないことを希望しています。

クレーム担当者の様々な経験を引き出し、クレームを深く分析することにより、当クラブでは責任クレームを引き起こす 76 の主要「脅威」の範囲を特定し、これら「脅威」が事故原因となる可能性を軽減し得る約 450 の「コントロール」を特定しました。

私共はクレームの防止やコントロールに対するより科学的なアプローチが取れるよう、メンバーとともに、リスク評価をし、これを記録するシステムを試行錯誤しながら構築しています。このシステムの使用を拡大するに従い、「傾向及び標準」が設定できるようにして、メンバーが個々の安全システムでリスク管理する上で使用できるようにしたいと考えています。

経済学者ドラッカーは「測定できないものは管理できない」(You can't manage what you can't measure)という言葉を残しましたが、これ以上の確に言い表した言葉はないでしょう。





